

まだ遅くない

葉月 一郎

え・小西保文（題字も）

〈11〉火花

こういう場の空気を、なんと形容したらいいのか。

奇妙な、屈折した雰囲気の流れで、よどんだ。

正面に、会社の経営陣が七人。

対座した新聞社側が四人。

警戒心、敵意、打算、職業意識……ひとつひとつが複雑に交錯する。目にみえない火花が、音を立てて散っているような――。

「えらい雨に、なりましたな」。

口を切ったのは工場長の柳瀬であった。この平取締役も、きょうの結果の重苦しさを充分、予知しているようにみえた。

「どうぞ、疑問点は、遠慮なく質問して下さい。それより前に、ちょっと、これを……」

工場長が配ったのは、会社の業務内容をしるしたパンフレットである。いかにもカネをかけたと思わせる、写



（あらすじ）昭和四十五年秋――。毎朝新聞神戸支局の戸波 峻記者は仕事の意欲を失い、バーの女ユカとの情事に溺れていたが、地元の大企業兵庫製鉄（兵鉄）の公害でユカたちが苦しんでいることを知り、石津支局長らの始めた公害キャンペーンに参加する。

そのころ、戸波は酔客らにからまれていた兵鉄秘書課の細川亜紀子を助ける。亜紀子は、会社首脳が協議した新聞社対策などの内容を相次いで戸波に知らせ、戸波に臂を与えたり「好きだ」と告げたりする。だが戸波は、素直に信じられない。

公害告発の取材は七人の記者を中心に進められ、兵鉄の和久井社長らとの会見も決まる。その前々日、戸波は亜紀子と二人だけの夜を持とうとするが、直前に酔ったユカが現れ、ユカと海辺のホテルで一夜を過ごす。そして会見当日、支局長や八木沢記者らと兵鉄本社へ乗りこんだ戸波たちを、亜紀子は何くわぬ顔で出迎える。

真入りの豪華な装丁が目をひいた。

「神戸と高砂と、三つの工場の内容が全部ここに紹介してあります。二十四頁をご覧いただきますと、公害対策に関する資料もおわかり頂けるはずですよ」

「これ、工場の見学者に渡しておられるものですね」

戸波は、パンフレットを開こうともせずに関り返した。

「これはすでにウチでも手に入れて読ませてもらいました。きょうは、こういうことでなく、具体的な被害に対

する考え方とか、将来の対策について、質問させてもらいたいのです……」

会社側のベースにはまっぴろげではない。それでは「いいことずくめ」の話しか出てこない。

（先制攻撃をかけて、住民ベースで進めていこう）

きのうの打合わせで確認済みなのである。

案の定、工場長は鼻白んだ。

質問は工場長段階で処理、答弁してしまう。そのあとで社長や専務が演説し、国への貢献や地元対策をPRする。――筋書きは、こうだったはずである。

重紀子が伝えてくれた「記者会見の予行演習」を戸波は思い出す。

多少、実際とは違っていい、地元対策用の答弁を並べたてておくだ、と花房総務部長が進言したという。

そうなると、こちらは、現実との食い違い答弁を、一つひとつ的確に指摘できるほど玄人ではない。

だが、いま被害を受けている住民の生活実感については、取材でくわしく身につけた。これを攻め道具にするのだ。



質問が、はじまった。

練りに練った答弁が返ってくる。ベテラン級同士の卓球試合のように、問答はピンポン球となつて往復した。

「公害対策の設備に、会社は六十五億円もかけている」と専務たちは強調した。

「はい煙や亜硫酸ガスの濃度は、ほぼ国の基準に近い数値に抑えている」ともいった。

「いくらカネをかけたか、が問題ではない。被害がどのくらい減ったか、被害ゼロにするために、どう手を打つか、それを聞きたいのです」

八木沢が、珍しく熱っぽい調子で食いがつた。

「第一、お役所の決めた基準そのものにも疑問は多い。それを守ったら被害がなくなるか。工場周辺に住む人を見れば、そんな基準がいかにデタラメか、すぐにわかりますよ」

「君イ、日本は法治国家だよ。国が決めたものを否定するんじゃない、話にならんね」

大北専務の声が荒れてきた。

「否定じゃない。甘すぎる、といってるんです。その証拠に、住民はいま公害に苦しめられている。小児ぜんそくの患者が、いかにこの地域に多いか、専務はご存知ですか」

「そいつは、君、うちの工場との因果関係が医学的に証明されていないじゃないか。そういう質問には、応じかねるねえ」

戸波が、あとを引きとつた。

「将来の問題ですが、いまの煙をなくする、つまり無煙化で公害をシャットアウトする考えは、ありませんか」

「そりゃ、ダメだな」

グワーンと、ひときわ大きい声が響いた。和久井社長だった。

「そんなことは、十年、二十年先でも、できん相談だ」
「全く、やる気がないということですね」



「その代り、公害防止のシカケには、今後もうんとカネをかける。国の基準以上に減らしてみせるよ」

「具体的な数字、金額、被害者対策なんかを聞かせてほしいのですが……」

「そいつは、いま研究中だ。しかし、だよ。とにかくこのわしが減らすと約束しとるんだ。それ以上、なにもゴジヤゴジヤと騒いで書きたてることはないだろう」

ふとい眉が、ぐいといつり上がってみえた。

(鉄は、国家なり)

文字通り鋼鉄のような自信と誇りが、この基幹産業の長に満ちあふれている。

ちっほけなマスコミのはしくれが、なにをほざいておるのか——歯牙にもかけぬといった表情が、むき出しに

なった。

しかし、それは逆に戸波の闘志を刺激した。

「約束は約束として、うかがっておきましょう。しかし現状は現状として書く。騒いで書きたてるのではなく、冷静に分析し、掲載する。それは私たちの自由ですからね」和久井社長の頬が、かすかにゆがんだ。(書けるものなら書いてみる)という、冷笑に近い影が走ったようにみえた。

「工場を、他へ移す。もっと人家の少ないところへ移転する、という計画はありませんか。そんな希望を住民から聞いたのですけど……」

「ない。全く、ないな」

冷笑が、嘲笑になった。

「考えてもみたまえ。ウチがここに工場を建てたときは、一面に草っ原だったんだよ。この周りの住宅は、あとから建った。君、ね、先住権というのを知っとるかね」

「よく知ってます。でも、先住権があるから、何をしてもいいってもんじゃないでしょう」

「だから、カネをかけて公害防止のシカケを充実させる、といっているんだ」

論議は、完全に堂々めぐりになった。

根本的に、立場が違う。

それが、問題の根を、かみあわなくしている。

「まあ、お互いが、少しずつ、我慢する。そういうことだな」

これが結論だ、といった語調で言い放つと、社長は視線を記者たちに流した。

戸波は、さっきから石津支局長が一語も発していないのに気付いた。

そつと、その横顔に目をやる。

焦点のさだまらぬ瞳が、宙を泳いでいる。

(支局長、なにを考えているのか)

膝を突いて、発言を促そうとする。

それより一呼吸早く、花房総務部長が声をかけた。

「支局長さん、いかがでしょう。この辺で一応、まあ、固い話は一段落ということでは……」

「え、ええ。そうですね」

「どうも、お疲れさまでした」

それが合図のように、ドアが開かれた。

細川亜紀子を先頭に、四、五人の女子社員が入ってきた。

素早く、手際よく、卓上に並べられたのは、ビールとオードブルだった。

「たいへん失礼とは存じますが、まあ、お近づきのしるしに、ということでは、お茶がわりにひとつ、どうぞ」

花房は目礼すると、亜紀子たちにビールを注ぐよう命じた。

「いや、私たちは、勤務中ですから……」

支局長の聲が届いたのかどうか、和久井はもうグラスにビールを注がせ、勢いよく飲み干している。

記者たちの側には亜紀子と、もう一人の秘書嬢が回ってきた。支局長のコップにビールを注いでいる。

つづいて、戸波の肩に、亜紀子の体が触れた。

「ぼくはいんです」

八木沢の硬い声が聞える。

戸波も、コップを伏せた。それは拒絶の意志表示である。

肩に触れたまま亜紀子の体が静止する。ぬくもりが、

何となく伝わってきたような時間が経過する。

「社長にうかがいますか」

突然、といった感じで、支局長が口を開いた。

「こういう公害批判記事は、書いてもらいたくないという心境ですか」

二杯目のグラスを傾けると、和久井社長は刺すような視線を送った。そして即座に、豪快に笑った。

「わしがどう思おうと、君たちは、書くんだろ。さっきも、隣の記者さんが、そういったじゃないかね」

「いや、社長ご自身のお気持ちをうかがってるんです」

和久井社長は、一瞬、硬い表情にもどった。自分でビールを注ぐと、一呼吸おいた。

「公正、正確な記事ならいい。しかし、住民の声といつても色つきが多い。アカやら黄色やらヘンなのがいっぱいある。そのところを正しく見分けてもらいたいね」

「要するに、事実なら構わぬ、というわけですね」

「ああ、正確なら、ね」

「ちょっと待って下さい。正確すなわち会社が望んでいる内容、というのでは困るのですが……」

「わかっておる」

むつとした表情で突き放すと、社長は三杯目を乾した貧乏ゆすり、はじまった。

亜紀子が、そつと戸波の肩から離れる。

栓を抜いたビールびんが残った。

「とにかく、公正ならいい、というご意向は確かに頂戴しました。ありがとうございます」

「どういう意味かねえ」

大北専務の聲が飛んできた。かなり高圧的な響きがこもっている。

「とくに意味はありません。要するに、私たちを信頼していただきたいということです。それに……」

「それに——？」

「まさか兵庫製鉄のような大企業が、どこかへ手を回して、記事をのせないように工作したりはしないでしょうな」

「失敬な」

大北専務はまっ赤になった。

（新聞社の切り崩しをするのが条件です）

亜紀子のことは、よみがえる。

あれが真実なら、専務の激怒は図星を指されたことを意味する。

本当に怒っているとすれば、圧力工作は事実無根と解釈すべきだろう。

（しかし、どうして支局長は、この席で、それを確かめようとしたのだろうか）

重紀子の洩らした「情報」は、何となく言いそびれて支局長にも話していない。

大北専務は、腕組みすると、アゴをひいて戸波たちを睨みすえた。

「うちは、そんなケチな会社じゃない。自由に、ただし、正確に、記事を書いて頂きたい。いうことは、それだけだね」

しらけた沈黙が襲った。

窓を叩く雨の音だけが、間断なく続いている。

社長の貧乏ゆすりも、止まりそうにない。花房が、とりなし顔で立上がり近寄ってきた。

「ま、そういう訳ですから、どうかお気軽にビール、あけて下さい」

それを無視するように、支局長も立上がっていた。表情は、意外におだやかである。

「どうも、いろいろ長時間ありがとうございます。これで、失礼させて頂きます」

にこにこ、人が変わったような笑顔がこぼれている。「また寄せてもらいます。ま、これを機会に、よろしくお願ひします」

深いお辞儀である。

ひきとめようとする花房と軽い握手をかわすと、支局長は戸波たちを目で促していた。

雨足は、いっこうに衰えていない。

社旗の重いためきを先頭に、車は支局へとしぶきを上げていた。

「きょうは成功やったな」

支局長が、はじめて口を開いたのは、そこう神戸店の前を横切ったときだった。

「幹部の公意識が、よくわかったからね」

「成功、といっているのでしょうか」

八木沢が、控え目な口調でつぶやく。

「君たち、腹がたなかつたのか」

「そりゃ、もう……。あれだけ汚い煙やガスをまき散らしているのに、トップが責任や罪の意識を感じていない、そのことだけで、何度もアタマへ来て……」

「そう、そう。それでいい。だから原稿も、社長や専務が発言したそのままを書く。読者は、君たちと同じようにアタマへ来る。そして、なんとか公害をなくしたいと真剣に考えるようになる。それが、われわれの狙いじゃなかつたのかい」

「そうだ。こちらの質問や追及に対して、平謝り、ご無理ごもつとも、物わりのいい態度で終始されたら、逆にキャンペーンの進め方がむづかしくなる。」

戸波は、支局長の「戦略」が、のみこめたような気がした。

「しかし、なぜ支局長は、あんな質問をしたのですか」

「うむ？ なんのことや」

「圧力工作です。会社が手を回したとか何とか……。実際、もうそんな事実が出ているんですか」

表情を盗み見るように、のぞきこむ。さきほど見かけたのと同じ、焦点の定まらない瞳が、そこにあった。

「支局長」

「……心配するな。なんにもないよ」

「じゃ、なぜあんな質問を……」

支局長は、答えずに煙草を取り出して、くわえた。マツチがぬれているらしく、なかなかつかない。

いらだちの走る頬が、戸波にはひどく孤独に見えた。（なにかあったに違いない）

直感が、戸波を刺す。不安が襲ってくる。支局長は、しかし視線を宙に泳がせたまま、ゆっくりとつぶやいた。

「相手は、途方もない大企業や。これからが大変やぞ」
雨が、また一段と激しさを加えていた。（つづく）

神戸のうまいもん&ドリンキング

★日本料理

- そば 吾作
神戸市生田区中山手通2丁目3-17
TEL 242-2858
- 讃岐名代うどん あこや亭
神戸市葺合区旗塚通7-5 TEL 231-6300
トアロード店 TEL 391-2538
兵庫駅前店 TEL 575-5306
- 和食 くれなゐ
三宮生田新道浜側中央
KCBビル2F TEL 331-0494
- かつばう 花くま
神戸市生田区花隅町45
TEL 341-0240
- 鍋もの・おむすび 悟味西
お茶漬・おはた
神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848
三宮さんちタウン TEL 391-5319
- お茶漬・おむすび 里
鍋もの
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331-5535
- たこ焼 たちばな
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572
- 北海道郷土料理 蝦夷
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門筋東門会館ビル1階
TEL 331-7770

- カニ料理 婆娑羅(ばさら)
神戸市生田区北長狭通1丁目18
三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F
TEL 321-6363

★西洋料理

- レストラン アポロン
神戸市葺合区八幡通5丁目6
TEL 251-3231
- レストラン 皮(あらかわ)
神戸市生田区中山手2-9
TEL 221-8547・231-3315
- GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門
神戸市生田区中山手通2丁目98/99
TEL 331-5817
- ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331-7168
- レストラン セントジョージ
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242-1234

- レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 241-0778
- maison de la mode 花屋敷
三宮フラワーロード市役所前
TEL 251-2109
- 鉄板グリル きゃんどる
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 331-1183
- レストラン キングスアームス
神戸市葺合区磯辺通4-61
TEL 221-3774
- 居酒屋 風れすたらん 井戸のある家
生田新道新世紀南
TEL 331-5664
- レストラン ムーンライト
三宮・生田新道
TEL 331-9554
- 串かつ店 和蘭陀屋
三宮相互タクシー北入
TEL 321-0230
- グリル・鉄板焼 月
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 331-2509
- BARBECUE & STEAK 六段
生田区元町通3丁目
TEL 331-2108
- イタリア料理 ドンナロイヤ
神戸市生田区明石町32
明海ビル地階 TEL 331-7158
- レストラン ハイウェイ
神戸市生田区下山手2-20
TEL 331-7622
- ビッツアハウス ピノッキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 331-3545
- レストラン フック東店
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 321-3207
- ピザ&スバゲティ ガルの店
葺合区琴緒町5丁目1-7
西山ビル1F TEL 241-9025
- レストラン ミリオナークラブ
生田区山本通2丁目50の2
レストラン 231-9393-5
メンバーズ 221-1162

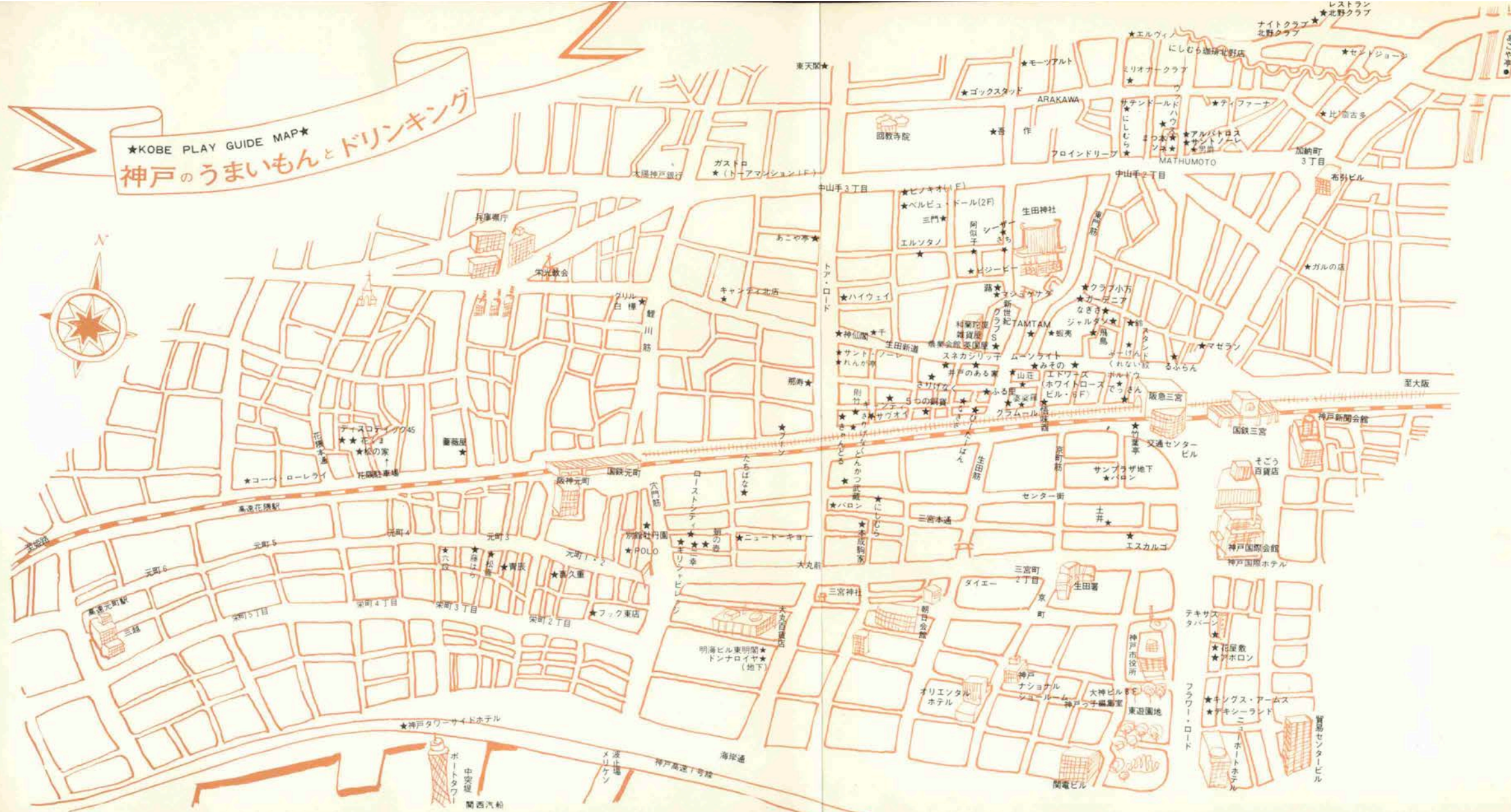
- ドリンキング & レストラン ベルビュー・ドル
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F
TEL 321-5677
- フォーク ウェスタン ローストシティ
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331-3770
- RESTAURANT & BAR ゴックスタッド
生田区山本通3丁目18 回教寺院前
TEL 242-0131
- メキシコ小料理 ティファールナ
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F
TEL 242-0043
- ドイツ風音楽レストラン コーベ・ローレライ
生田区北長狭通6丁目39
TEL 371-0086
- ★喫茶 宮水の にしむら珈琲店
コホニ
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221-1872・231-9524
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391-0669
北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467
(会員制) 3F事務所 TEL 242-1880
- 喫茶・レストラン バロ
神戸三宮サンプラザ地下 TEL 391-1758
トアロード店 TEL 391-1210
- 喫茶 ガーデニア
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F
TEL 321-5114
- 珈琲 モーツアルト
神戸市生田区山本通2丁目98 グランドマンション1F
TEL 241-3961
- ★club くらぶ 阿似子
神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 331-6069
- c l u b 飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331-7627
- エドワーズ倶楽部
神戸市生田区北長狭通1丁目28
ホワイトロースビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300
- c l u b 小万
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638・4386

- c l u b 千
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331-7120
- クラブ 千
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391-1077
- c l u b なぎさ
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626
- c l u b 落(ふき)
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515
- くらぶ ーげん
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331-8593
- c l u b Moon Light
BAR TEL 331-0886・391-2696
Club TEL 331-0157
- クラブ るふらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854
- ★STAND & SNACK スタンド 英国屋
生田区下山手通2-6 相互タクシー横
TEL 331-1100・331-6600
- 洋酒ハウス 雑貨屋
生田区下山手通2丁目8の6
(生田新道相互タクシー横上) TEL 321-0260
- スタンド グラムール
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637
- SNACK MATSUMOTO
神戸市生田区中山手通1丁目32-3
曾根ビル1F TEL 241-5470
- カクテルラウンジ サヴォイ
高梨山側 テキの店北
TEL 331-2615
- DRINKING IS AN ART OF LIFE ウッドハウス
神戸市生田区下山手通1丁目32
PHONE 078-241-7320
- スナック ビジービー
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391-4582
- 居酒屋 ボルドー
生田新道浜側中央KCBビル1F
TEL 331-3575

- スナック シーザー
生田神社西門伊藤ビル地下
TEL 331-1429
- 洋酒の店 キャンティ
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391-3060・391-3010
- スープとパン店 キャンティ北店
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661
- DRINK SNACK スネカジリッ子
神戸市生田区下山手通2丁目
水見ビルB1 TEL 391-8708
- Stand&Snack サントノーレ
ティー&ドリンク 生田区下山手通2丁目トア・ロード
TEL 391-3822
- Salon de roulette パンドラ
ルーレット教室 神戸市生田区中山手通1丁目24-7
ダイワナイトプラザ6F TEL 241-1710・221-3886
- 素舌洞 でっさん
神戸市生田区北長狭通1丁目258
TEL 331-6778
- STAND マッシュケナダ
生田区下山手通2丁目ちやいなタウン地
TEL 331-55
- スナック GASTRO
神戸市生田区中山手通3-20
トア・マンション TEL 231-0723
- スタンド クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329
- SNACK 山の手
神戸市生田区中山手通1丁目
ソネビル1F TEL 221-3637
- スナック 比奈古多
神戸市生田区北野町1丁目143
Tel 241-1306
- サロン アルバトロス
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231) 3300
- スナック エルソタノ
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620
- スナック 山荘
神戸市生田区北長狭通1丁目22
TEL 391-5823
- スナック 紋
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1 レンガ筋
TEL 331-8858

★KOBÉ PLAY GUIDE MAP★

神戸のうまいもん＆ドリンキング





balon antique series

XXII 七宝・象牙

澤井 修一

〈元町電機・元町美術社長〉

「七種の珍宝をしずめたごとく精巧華美な、という名をもつ七宝焼ですが、刀の拵に七宝を使ったものは珍しく、残っているのは数少ないということです。象牙は、生きたアフリカ象に細工をほどこしたもののなのでツヤがひと味違うでしょう。バロンのこの店もインテリアがぜいたくでコーヒーがおいしく飲めますよ」

トアロード バロンにて
カメラ／米田定蔵



バロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店
TEL 391-1758 AM11:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店
TEL 391-1210 AM10:00~PM 9:00迄

★コーヒーショップセンター街店
TEL 391-1375 AM10:00~PM 9:00迄



▲望月美佐先生の書道教室

●屋間のお暇な時間を趣味のお稽古で楽しくすごしませんか？

クラブ小万文化教室で生徒を募集しております。男女を問わずどなたでもお気軽にお越し下さいませ。

金曜日をのぞく毎日午後1：00～3：00まで。

月、日本舞踊	花柳芳一勢先生	木、英会話	ジム・R・カスバート先生
火、着付	太和田操子先生	土、小唄	吉野派家元
水、書道	望月美佐先生		



CLUB
小万

岩本起代子
生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391-0638, 4386



暑中お見舞い申し上げます



落ち着いた木彫ムードとエレクトーンの音色で
“涼しく” おもてないたします。

営業時間・午前11:00～夜12:00 定休日・毎週水曜日

神戸市東灘区御影石町3丁目メゾン新御影(御影公会堂前) TEL(078)841-3591



コーヒーの味は水によって違いますね。通になるほど味に厳しくなるものですが、軟水を使ったコーヒーは喜ばれています。
(コンコード)



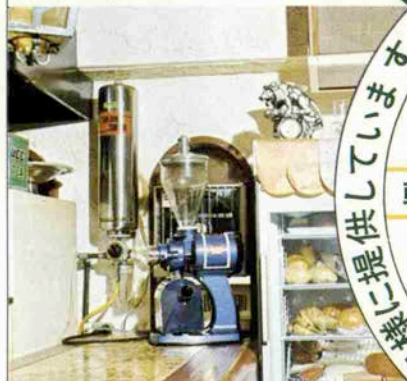
CAFÉ DE CONCORD

生田区三宮町2丁目35

☎ 331-6855

口ざわりが違うでしょうとお客さんにいますと、成程なあとおっしゃいますね。
(シャレー)

軟水を使った反響ですか？
水割りに絶対です。おかげで、ウイスキーの出がえています。
(MATSUMOTO)



シャレー TEA & SNACK
Chalet
芦屋市朝日ヶ丘
レックスマンション1F
☎ 0797-31-6633

K D
Tomorrow's World Today

MATSUMOTO

生田区中山手通1丁目32-3

曾根ビル1階

☎ 241-5470

- 水がおいしく変わる
- 不景気を乗りきる
- 欧米では常識
- 新しいインテリア
- 口でとろけるフィルターのかけた味

GS

お問い合わせは



〈総発売元〉
KANSAI DIVISION CO INC.
GS事業部 TEL. 078-241-3830

★一年で最も暑い季節になりました。キラキラと太陽が照りつけ、体力の消耗も激しいとき。こんなときこそおいしいものをモリモリ食べて体力をつけたいものです。何を食べたらいいのかなあ……と迷うのは野暮なこと。“ゴックスタッド”へ行けばいいのです。仲間が揃えば、名物“かぶと”の周囲に陣取って、マトン、ポーク、チキンなど好みの肉や魚と野菜をジュンジュン焼いて食べてみよう。暑さでダランとしていた身体の間々に新たな力の湧き出ること間違いなし。食事のあとは静かに流れる民族音楽に耳を傾けながらアクアヴィットでも楽しみましょう。夏宵もこれまた価値千金なのです。

☆かぶと焼き各種(マトン、ポーク、チキン、ビーフ、えび、いか、サーモン、ミックス) ¥600~800 にしん、さけ、うなぎのくん製 各¥1,000
スモーク・シュットラブル(スウェーデン風肉ダング) ¥1,000 アクアヴィット ¥400 水割 ¥400

6:00P.M.~2:00A.M. 水曜日休み



ゴックスタッド

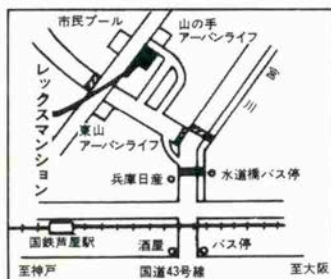
★暑中お見舞い申し上げます。

本日に暑い日が続きますが、あなたは、今年の夏、どちらの方へいかれましたか。ハワイでは、それとも、ゲーム……。何ッ? 須磨の海水浴場で毎日毎日一人淋しく体を焼いて夏をすごしているって。それは悲しいこと。夜になっても体が熱くボカボカしてはいませんか。そのときは、ひんやりすずしい“ウッドハウス”へ来てください。ビールでもグイッと一杯あげれば、涼しくなることうけあい。夏の日“ウッドハウス”、またひと味ちがいます。お待ちしております。黒ん坊様!
☆昼(11:30A.M.~7:00P.M.) コーヒー ¥150 紅茶 ¥150 ビラ ¥250
サービスランチ ¥300 夜(7:00P.M.~4:30A.M.) ビール(小) ¥300
水割り(OLD) ¥400 フィズ ¥500 おつまみ ¥100 平日 11:30A.M.~4:30A.M. 日曜 5:00P.M.~0:00A.M. 第1・3日曜日休み

ウッドハウス



KOBE DRINKING GUIDE



シャレー

サンソウ



★シャレーとはスイスのチロル地方の山小屋のこと。TEA&SNACK “シャレー”は、芦屋の山の手の閑静な場所にある山小屋風のシャレーのお店です。ふたりでドライブにでかけられたとき、チョットお立ち寄りになりませんか。店はいつも若い人たちがいっぱい。昼は落ち着いた雰囲気なかで珈琲を、夜ともなればギターの調べに耳をかたむけながら香り高いブランディを楽しんだり、愉快地踊ったり、夏の夜を楽しくお過ごしになれます。今日は可愛い女の子を中心に店のスタッフが勢揃い。にぎやかな店内に花をそえています。一度お立ち寄り下さい。

☆コーヒー ¥200 ビツァ、軽食あり。

9:00A.M.~12:00A.M. 年中無休

ドキッとしたハブニングのある店

一年で一番暑い季節。何となくダランとしてしまいます。しかし、ここ“山荘”へ一歩足を踏み入れると、とたんにスッキリシャンとしてまいります。お客さまと大いに楽しく一緒に遊ぼうじゃないか。マスターの上松さんの哲学が店中に行き届いているからなのです。店は20代、30代のホワイトカラーのたまり場。底ぬけに明るく、リラックスした雰囲気は最高です。掛け値なしに神戸独特のムードがビツタリの店なのです。バンドギターの調べにのって、自慢ののを披露すればこれまた楽しい。可愛い子ちゃんを混じえてワイワイガヤガヤ……。ドキッとさせるハブニングも充実しているのです。ホラ、今夜も何かが起こりそうですよ。☆パーティー・コンパ・クラス会などにもご利用下さい。

6:00P.M.~2:00A.M.

■ボエム・ド・コウベ

一の谷

~~~~~伝説は暮色の夏の夢~~~~~

小泉 八重子

暮れなずむ夏の塚より姫生まれ

少年ら溪谷たにに夕陽の蹄を見る

父子の夏帽蝶にまぎれし三の谷

いまはロマンの背後の山の鉄線花

松と白帆と失いし色遠きかな





カメラ／藤原保之